

一般質問通告書

受領日時 令和3年 3月 1日 午前 9時15分 8番 氏名 畑澤洋子

質問項目	質問の要旨
1 円滑な新型コロナウイルス予防接種事業を	<p>① 新型コロナウイルス予防接種を「受けたくない」という人もいる。昨年、町から全町民に配布された季節性インフルエンザ予防接種券の利用人数は。 新型コロナウイルス予防接種は16歳以上からで、接種不適格者・接種要注意者の選別もあるが、接種する町民の総勢×2回の合計の回数。</p> <p>② 町の会場に集まる集合型接種と、クリニックなどでの個別接種、施設などに出張する接種など、町の裁量で決めることが出来る。町ではどのようにするか。</p> <p>③ ファイザーは16歳以上の用法だが、アストラゼネカとモデルナは18歳以上の用法になっている。優先順位では遅い16歳17歳を、ファイザーが充分ある時に優先し早い段階に接種する必要があるのでは。</p> <p>④ 予防接種に期待感が多いが、連日の報道で「自分もアナフィラキシーになる」と思っている人が多い。事前の説明や相談受付など小まめに不安の払しょくに努め、接種不適格者・接種要注意者を見極めてほしい。ショック状態になった場合、エピペンやアドレナリン投与で重症化は防げるが、因果関係を明らかにし、予防接種健康被害救済制度を受けるためにも救急搬送は必要だ。事前に搬送時の役割分担等の予備訓練を。</p> <p>⑤ 短期間に大勢の町民に2回の予防接種は一大事業だ。スムーズに終了出来るように、会場への専用送迎車の確保、タクシー無料送迎が有効ではないか。</p>
2 子宮頸がん予防ワクチン対象者へ情報の周知拡充を	<p>①子宮頸がん予防ワクチン注射後に運動障害を発症した症例があり厚労省の勧告に基づき、積極的な接種の勧奨を控えてきた経緯がある。しかし子宮頸癌罹患者と死亡者が増加傾向にて、厚労省は、昨年と本年1月にワクチンの定期接種について「情報提供の更なる充実を図る事」と各自治体に通知している。情報を対象者に個別配布する自治体も増えて来ている。 本年1月、1歳と6歳の男児の肺癌の細胞遺伝子が母親の子宮頸がん由来のものと判明したことも世界初の</p>

	<p>症例であり驚愕の事態だ。当町での子宮頸がん予防ワクチンの対応はどうなっているか。</p>
<p>3 リスクの高いヤングケアラーに早期に適切な支援を</p>	<p>① アルツハイマー型認知症を患った祖母を介護していた孫娘が、祖母を殺害した事件でヤングケアラーの存在が注目されるようになった。秋田県が「ケアラー」支援に本腰を入れる。当町でも調査を開始し、介護を受ける側はもとより、介護をする側にも目を向け必要な支援につなげる対策の構築を。</p>
<p>4 新図書館「わーくる」で楽しさ増す読書手帳の配布を</p>	<p>① 借りた本の記録を、自分でプリントアウトしシールを貼るタイプの手帳を導入し好評の図書館がある。更に ATM と同じ感覚で印字してくれる読書通帳などを採用している図書館もある。読書を楽しく続けられる夢のある手帳を準備してはどうか。</p> <p>② 新型コロナウイルスとは長い付き合いになる。ウィズコロナ対策には、書籍消毒器が欠かせない。導入の検討を。</p>